

スマートシティ伊勢推進構想

人と人がデジタルでつながる
~People Connected by Digital~



令和6年3月

スマートシティ伊勢推進構想の策定にあたって

伊勢市は、神宮林や清流宮川などの豊かな自然に恵まれており、古くから神宮が鎮座するまちとして栄えてまいりました。先人たちが守り続けてきた自然や伝統、神宮を訪れる旅人をもてなす文化が根付くまちでもあり、今も全国各地から多くの方が伊勢を訪れ、賑わっています。

一方で、全国的に人口減少・少子高齢化が進んでいる中、伊勢市も例外ではなく、各分野で人材不足に直面しているなど、様々な地域課題を抱えています。これらの課題を、デジタル技術を活用して解決していくとともに、私たちの生活を更に豊かにし、便利でくらしやすい社会の実現につなげていくことが求められています。

そこで、伊勢市では、産官学民が連携して、デジタル技術を活用したデジタル変革(デジタルトランスフォーメーション)により、サービスの向上、組織運営の効率化及び地域課題の解決を行うまち、スマートシティの実現に向けての取り組みを開始しました。

実現に向けては、人と人がデジタルでつながることが重要と考えます。デジタル技術は、単に便利なツールとしてだけでなく、人間の価値観や行動を変える力があります。デジタル技術を活用することで、市民や事業者、行政などが互いに情報や知識を共有し、協働して新たな価値を創造することができます。

スマートシティ伊勢推進構想は、快適で便利な暮らしを実現する伊勢市の未来を描く大切なビジョンであり、行政や市民、事業者など、皆様が一体となって取り組むことが必要となりますので、ご理解・ご協力よろしくお願い申し上げます。

本構想の策定にあたっては、多くの方々からご意見やご提案をいただきましたことに対しまして、心より御礼申し上げます。

I 策定の背景・趣旨

- (1) 伊勢市を取り巻く状況と抱える課題
- (2) 策定の趣旨
- (3) 伊勢市がこれまでに取り組んできたこと

II 構想の位置付け

III 他の計画との関係と構想の期間

IV 将来像・基本理念・基本原則

- (1) 基本的な考え方 ～スマートシティ伊勢の将来像～
- (2) スマートシティ伊勢を実現する上での3つの基本理念
- (3) スマートシティ伊勢の基本5原則

V 目指す姿・取組の方向性

VI 既に実施している取組

VII 推進体制

VIII 今後の進め方・ロードマップ

参考 I 用語集

参考 II 策定経過

参考 III 行政がこれまでに取り組んできた主な取組

(1) 伊勢市を取り巻く状況と抱える課題

第3次伊勢市総合計画 中期基本計画では、8つの分野横断課題の一つとして、「デジタル技術の活用」を掲げており、伊勢市の現況と課題及び取組方針について、以下のように示しています。

【現況・課題】

デジタル技術の急速な進歩や、多様・大量なデータ流通の進展に伴い、国は誰もがデジタル技術やデータによる恩恵を受けられる社会の形成を推進しています。また、新型コロナウイルス感染症の影響によるニーズの多様化やデジタル庁の設置等を受け、社会全体でデジタル化の動きは加速しています。

本市においても、新型コロナウイルス感染症によりデジタル化の遅れが顕在化したことに加え、人口減少や少子高齢化の進行に伴う人的資源の不足等、さまざまな課題を抱えています。

限られた資源で、市民サービスの向上や効率的な組織運営、地域課題の解決に取り組むには、地域全体でのデジタル化を推進する必要があります。

【取組方針】

デジタルの活用による暮らしやすいまちづくりを進めるため、行政においては、市民目線での利便性向上やデジタルデバイドへの配慮、デジタル技術を活用した行政サービスの提供やデジタル環境の整備、内部事務のデジタル化、デジタルを活用できる職員の育成等に取り組むと同時に、地域においても、産官学民が連携して教育・福祉・産業分野等における地域課題の解決等に取り組み、地域全体でのスマートシティ化を進めていきます。

【第3次 伊勢市総合計画 中期基本計画より抜粋】

(2) 策定の趣旨

「(1) 伊勢市を取り巻く状況と抱える課題」で示した課題を解決するため、地域全体のデジタル化を進めるにあたっては、行政が率先して取り組むことが重要と考え、行政内部における推進体制の整備や推進計画の策定を進め、全庁的にデジタル技術を活用した個別施策に取り組む環境を整えることで、市民サービスの向上や、行政運営の効率化を図ってきました。

また、地域全体のデジタル化を進めるため、産官学民が連携して取り組んでいくための場として、市内の様々な分野の団体が参画する「スマートシティ伊勢推進協議会」を設立し、それぞれの個別分野における取組を進めるための体制整備や、実証事業を行ってきました。

これまでは個別分野ごとの取組を進めてきましたが、今後、スマートシティの実現に向けて分野を横断した課題の解決に取り組むにあたっては、地域が一体となって実現していく共通の姿を示すことが必要であることから、この度、「スマートシティ伊勢推進構想」を策定しました。

なお、本構想にあたって実施・開催したアンケートやワークショップでいただいた意見については、「V. 取組の方向性」に反映しました。

アンケートでいただいた意見を反映した箇所には、「(A)」、ワークショップでいただいた意見を反映した箇所には「(W)」と記載しています。

(3) 伊勢市がこれまでに取り組んできたこと

伊勢市では、行政のデジタル化を進めるため、これまでに以下のことに取り組んできました。

- 市長を本部長とする推進体制「伊勢市デジタル行政推進本部」の設置
- 全庁的にデジタル化を進めるための計画である「伊勢市デジタル行政推進ビジョン」の策定
- 紙による手続きを原則としていた行政手続きをオンライン化するための条例の制定及び汎用的なオンライン申請システムの導入
- 細やかな情報発信や様々な問い合わせへの自動案内を行うための伊勢市LINE公式アカウントの運用
- 多くの市民が訪れる窓口へのキャッシュレス決済対応システムの導入
- デジタルデバイド解消のための高齢者向けスマートフォン教室の開催
- 業務効率化を図るための生成AIの活用及びAI-OCRやRPAの導入
- 意思伝達、決定の迅速化を図るための電子決裁の原則化 など

本推進構想の位置付け

伊勢市の最上位計画である「第3次 伊勢市総合計画」の基本構想に掲げる、まちの将来像「つながりが誇りと安らぎを育む 魅力創造都市 伊勢」を実現するため、行政や市民、事業者などが一体となって分野横断課題の一つである「デジタル技術の活用」を進め、スマートシティ伊勢を実現していくための指針として位置付けます。

第3次 伊勢市総合計画 基本構想

まちの将来像「つながりが誇りと安らぎを育む 魅力創造都市 伊勢」

第3次伊勢市総合計画(中期基本計画)

取組方針 「子どもたちの笑顔があふれ(笑子)、幸せに年齢を重ねられる(幸齢)まちづくり」
～笑子・幸齢化のまちづくり～

分野横断課題 ⑤デジタル技術の活用

分野別計画

分野1
自治・人権
・文化

分野2
教育

分野3
環境

分野4
医療・健康
・福祉

分野5
防災・防犯
・消防

分野6
産業・経済

分野7
都市基盤

分野8 市役所運営

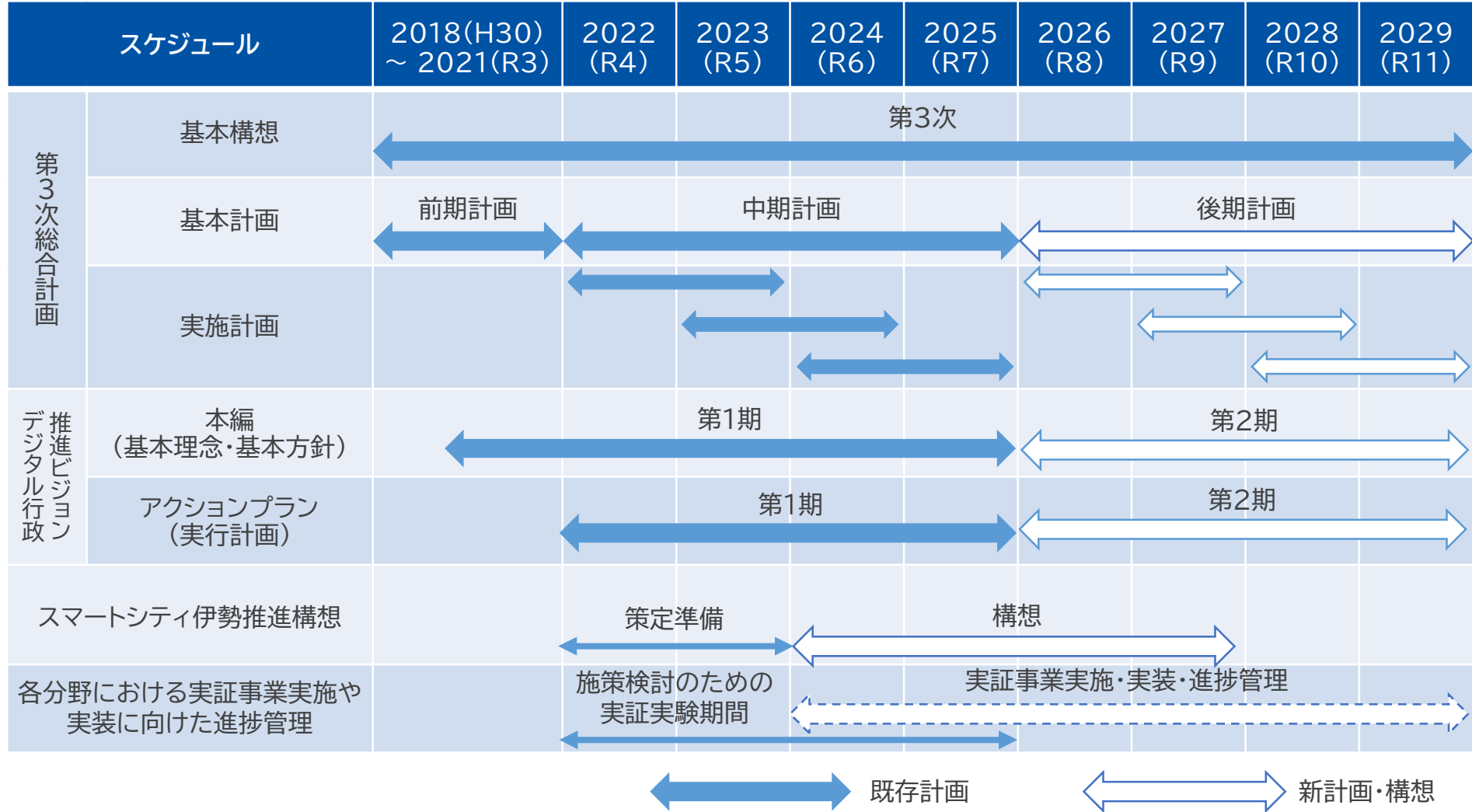
スマートシティ推進構想

分野を横断した課題を解決するスマートシティを推進するための指針

Ⅲ. 他の計画との関係と構想の期間

関連計画との関係と本構想の期間

本構想の期間は、令和6年度から令和9年度までの4年間としますが、総合計画の策定等も踏まえ、見直すことも検討します。



(1) 基本的な考え方 ～スマートシティ伊勢の将来像～

ミッション
(使命)

デジタル技術を活用し、地域課題の解決を進めることで、「つながりが誇りと安らぎを育む 魅力創造都市 伊勢」の実現を図る

ビジョン
(将来像)

人と人がデジタルでつながる ～People Connected by Digital～

スマートシティ伊勢

全体の
方向性

- ・デジタル技術を活用した市民生活の質の向上
- ・デジタル技術を活用したサービスの向上、組織運営の効率化
- ・デジタル技術を活用し地域課題の解決

スマートシティ伊勢を実現する上での3つの基本理念

理念①

市民起点
市民(利用者)中心主義

理念②

共創による
新しい価値の創出

理念③

素早く実践・検証・改善

スマートシティ伊勢の基本5原則

原則①

様々なサービスや
組織が相互に連携

原則②

多様性と包摂性

原則③

安全・安心の確保

原則④

透明性確保

原則⑤

運営面、資金面での
持続可能性の確保

(2) スマートシティ伊勢を実現する上での3つの基本理念

理念①

市民起点
市民(利用者)中心主義

市民のニーズや課題を起点に、データやデジタル技術を解決の1つの手段として活用し、市民の幸福や健康の向上を目指します。

理念②

共創による
新しい価値の創出

市民、企業、大学、NPO 団体、行政など多様な主体が主体的に参画し、組織や分野を超えた共創のまちづくりを推進することで、新たなサービス・仕組みを創出することを目指します。

理念③

素早く実践・検証・改善

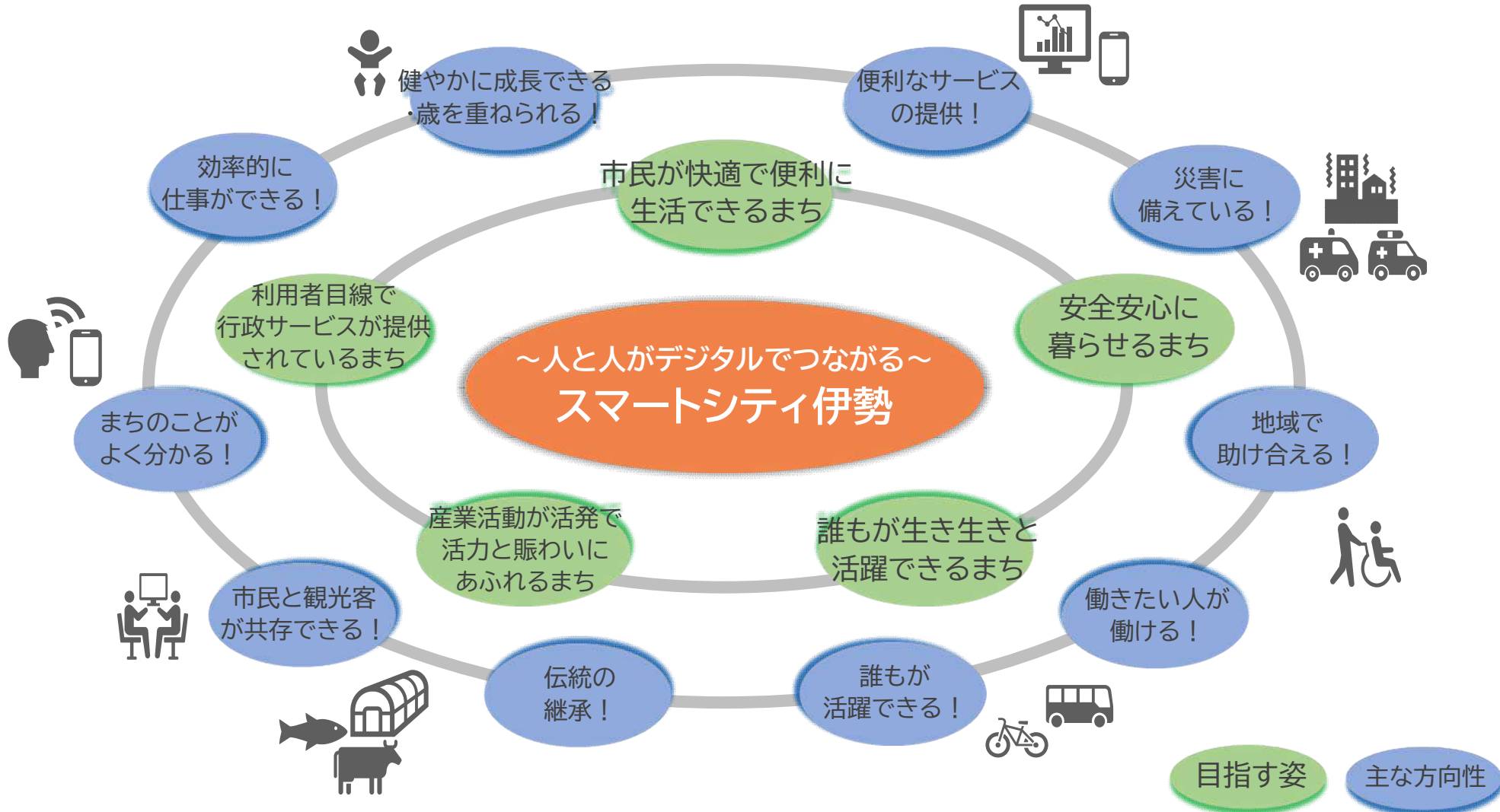
まずは小規模でチャレンジし、実行・検証・改善を繰り返すことで、求められるサービス・仕組みを創出します。

(3) スマートシティ伊勢の基本5原則

原則①	原則②	原則③	原則④	原則⑤
<p>様々なサービスや組織が相互に連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 民間企業、学術機関、関係団体、市民グループなど、多様なステークホルダー同士が、連携を深め、各者が保有する豊富な知見・データを活かした取り組みを推進します ○ 地域や分野の壁を越えたデータやサービスの連携により相互運用性を確保し、サービスの全体の最適化と新たな価値の創出を図ります 	<p>多様性と包摂性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ デジタル技術を、あらゆる人の社会活動やまちの運営をサポートするツールとして活用します。デジタルで年齢や国籍、性別、障がいの有無などを問わず、すべての人の社会参加を支え、多様性を認識し、包摂的な社会を目指します ○ 先端技術やデータの活用の効果は、経済性や効率性だけでなく、課題解決への寄与など社会的貢献性を大切にします 	<p>安全・安心の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スマートシティの実現に向けたサービス設計にあたっては、サイバー攻撃やデータ流出などに対応した適切なセキュリティ対策を講じます ○ 自然災害、不慮の事故などにより情報システム等のサービスに障害が発生した場合でも、最低限の機能を維持しながら、早期に回復できる能力を確保するように努めます 	<p>透明性確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ データの流通や活用にあたっては、透明性の確保や市民・サービス利用者の個人情報・プライバシーの保護に十分に配慮を行います ○ 個人情報の取得・利用にあたっては、個人情報の保護に関する法令等を遵守したうえで、本人同意を原則とします 	<p>運用面、資金面での持続可能性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スマートシティの実現に向けたサービスデザインにあたっては、運用面や資金面の両方から持続可能な仕組みを検討します ○ サービス利用者、サービス提供者の双方が価値を享受できる仕組みを検討します

V. 目指す姿・取組の方向性

(1) スマートシティ伊勢で目指す姿・取組の方向性



スマートシティ基盤の整備
(データ連携基盤の導入・推進体制の充実、規約・ルール作り)

(2)① 暮らしの利便性向上

目指す姿

市民が快適で便利に生活できるまち

主な方向性	取組の例(※)
○ まちのお店が利用しやすい	<ul style="list-style-type: none"> デジタルマップでお店の営業情報やメニュー、対応しているキャッシュレス決済、距離などを可視化(W)
○ 車がなくても、充実した生活ができる	<ul style="list-style-type: none"> キャッシュレス決済の推進(W)
○ 伝統文化や古いまちなみを残しながらも、新しい技術の活用がされている	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転やオンデマンド交通などの導入(W) 公共交通の運行状況や待ち時間の可視化(W)
○ 市民の“住みやすさ”と観光客にとっての“観光地の魅力”を両立している	<ul style="list-style-type: none"> 伝統文化や古いまちなみをデジタル技術で再現(W・A)
○ 通信環境が整っている	<ul style="list-style-type: none"> リアルタイムでの混雑情報の提供(W)
○ ほしい情報がスマートフォンで入手できる	<ul style="list-style-type: none"> 多くの方が利用する施設のWi-Fi環境整備(W)
	<ul style="list-style-type: none"> オンラインでの施設や設備の位置情報の共有(W)

※「取組の例」は、主な方向性を実現するにあたってのアイデアです。既に取り組んでいる事例も含まれます。

W：ワークショップの意見 A：アンケートの意見

(2)② 安全安心の確保

目指す姿	安全安心に暮らせるまち
-------------	-------------

主な方向性	取組の例(※)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な情報や取組を簡単に知ることができる ○ デジタルへの不安や苦手意識をなくせている ○ 気軽に相談し、サポートが受けられる ○ 見守り、支えあい、地域で助け合える ○ 子育てがしやすい ○ 安全に情報が活用できている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNSやアプリを活用した情報発信(W・A) ・ デジタルツールの利便性の周知(W) ・ 苦手な人でも使いやすいツールの導入(W・A) ・ 困っている人と助けることができる人が直接コミュニケーションを取れる環境整備(W) ・ 防災・防犯情報をデジタルマップで共有(W) ・ ITによるサービス提供時間の拡充(W) ・ 位置情報を活用した見守り(W) ・ マイナンバーカードを活用した情報共有(W)

※「取組の例」は、主な方向性を実現するにあたってのアイデアです。既に取り組んでいる事例も含まれます。

W：ワークショップの意見 A：アンケートの意見

(2)③ ワークライフバランスの実現・社会活動の促進

目指す姿	誰もが生き生きと活躍できるまち
------	-----------------

主な方向性	取組の例(※)
○ ワークライフバランスを取りながら働ける	<ul style="list-style-type: none"> ・ テレワーク環境の整備(W・A) ・ サテライトオフィスの誘致(A)
○ 勤務時間や勤務場所を問わず、様々なサービスを受けられる	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインサービスの拡充(A) ・ ドローンを活用したサービスの提供(W) ・ 自動化ツールによる業務効率化(A)
○ 若者や高齢者、障がい者など、全ての人が働きやすい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場作業の負担軽減ツールの導入促進(A) ・ 学生が老舗のデジタル化をサポート(W)
○ 個性や特徴にあった就労ができている	<ul style="list-style-type: none"> ・ マatchingアプリなどを活用した就労支援(A)
○ 市民がまちづくり活動に参画しやすい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ポイントを活用するなど、市民が簡単に改善のアイデアを発信できる市民参加型プラットフォームの導入(W)

※「取組の例」は、主な方向性を実現するにあたってのアイデアです。既に取り組んでいる事例も含まれます。

W：ワークショップの意見 A：アンケートの意見

(2)④ 産業・経済の活性化

目指す姿	産業活動が活発で活力と賑わいにあふれるまち
------	-----------------------

主な方向性	取組の例(※)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 異なる産業分野が付加価値を創出している ○ 新たなビジネスモデルを構築できている ○ デジタル化の普及啓発で地域企業を支えられる ○ AIを活用して高効率化に取り組んでいる ○ 地域の事業所を支える人材を育成し活用できている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルツールを活用した農畜水産物の付加価値の創出【6次産業化】(A) ・ 顧客情報の他分野における活用(A) ・ 地域企業のデジタル化支援【デジタルツールの導入支援や生成AIの活用支援、補助金/助成金など活用施策の自動通知】(A) ・ 地域企業のデジタル化優良事例の共有 ・ 交通機関と観光施設の連携(観光型MaaS等)(A) ・ サイネージやアプリを利用した観光案内の実施(W) ・ 混雑状況や位置情報に応じたAIによる観光ルートの提案(W・A) ・ 現況の見える化、人手不足等のAI診断、収益改善・情報活用・DXの研修のリモート実施

※「取組の例」は、主な方向性を実現するにあたってのアイデアです。既に取り組んでいる事例も含まれます。

W：ワークショップの意見 A：アンケートの意見

(2)⑤ 便利で信頼される市役所

目指す姿	利用者目線で行政サービスが提供されているまち
-------------	------------------------

主な方向性	取組の例(※)
<ul style="list-style-type: none">○ 人に優しいサービスの提供している○ 誰もがデジタルによる恩恵を享受できている○ 安定的なシステムを導入し、信頼性を確保している○ デジタルリテラシーの高い職員を育成している○ 効率的に業務を行っている	<ul style="list-style-type: none">・ 行政手続きのオンライン化・ LINEを活用した相談窓口の設置・ SNSを活用した情報発信・ 高齢者向けスマートフォン教室の開催・ 標準システム導入やセキュリティ対策強化・ デジタルリテラシー向上研修の実施・ 電子決裁の推進やテレワーク環境の整備・ 業務効率化ツールの活用

※「取組の例」は、主な方向性を実現するにあたってのアイデアです。既に取り組んでいる事例も含まれます。

(1) スマートシティの推進

スマートシティ推進体制の整備



スマートシティ推進宣言の発出

スマートシティ推進宣言

「～人と人がデジタルでつながる～ スマートシティ伊勢」

伊勢市は、神宮林や清流宮川などの豊かな自然に恵まれており、古くから神宮が鎮座するまちとして栄えてまいりました。さらに、先人たちが守り続けてきた自然や伝統、神宮を訪れる旅人をもてなす文化が根付くまちでもあり、今も全国各地から多くの方が伊勢を訪れ、賑わっています。一方、全国的に人口減少・少子高齢化が叫ばれている中、伊勢市も例外ではなく、各分野で労働力不足に直面しているなど、様々な地域課題を抱えています。

国においては、令和3年5月にデジタル改革関連法案が成立され、令和3年9月にはデジタル庁が創設されました。デジタル化を進める上での基本理念を示したデジタル社会形成基本法では、これまで国と地方公共団体の責務とされていたデジタル社会の形成において、民間事業者の責務についても明記されました。

また、「デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針」においても、目指すデジタル社会のビジョンとして、「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会」が掲げられています。

伊勢市においても、行政と各分野の団体や事業者、学校等が連携し、人口減少などによる地域課題を、デジタル技術を用いて解決できる社会の実現に向けて、取り組む必要があります。

そのため、わたしたちは、産官学民が連携して、デジタル技術を活用したデジタル変革(デジタルトランスフォーメーション)により、サービスの向上、組織運営の効率化及び地域課題の解決を行うスマートシティの実現に向けて取り組むことを、ここに宣言します。

スマートシティ伊勢推進協議会

商工・観光部会の設置

スマートシティ伊勢推進協議会 (SCI推進協議会) では、分野別の調査・検討を行うため、分野ごとに部会を設置します。部会は、参画団体として参画しているそれぞれの分野の主要団体と市担当部署のほか、事業目的に応じて様々な協力・ご支援をいただける企業・学校等で構成し、実証事業の実施及び検証を行います。今回は商工・観光分野における部会を設置します。



ワークショップの開催

ワークショップの開催(令和5年2月18日 伊勢商工会議所 5階大ホール)

- 商工分野について議論するグループ



- 出てきた案



(2) 観光客の受入環境整備

リモート観光案内システムの導入

- リモート技術を導入し、感染リスクを無くしつつ、サービス提供方法・体制の柔軟性を確保する。
- 拠点の伊勢市駅案内所は、設備等を新しい旅行にあわせ強化し、対面案内を実施する。また、リモート型案内所へのオペレーションを行う。

- 「安全・安心」に観光案内が十分実施できていなかった



- 4か所の案内所にリモート観光案内端末を設置 (R4.12実施)



- 伊勢市駅の対面案内の感染症対策強化



主要観光地の混雑状況配信

事業内容

主要観光地にカメラを設置し、得られた画像データをAIで解析し、リアルタイムな混雑状況等をWEB配信する。

効果

観光客: 3密回避のための判断材料を得られ、混雑を避ける行動をとることができるようになる。
観光事業者: 来客数の平準化が図られる。ウイルス感染のリスクが抑えられる。
市民: 過密状態の発生が抑制され、市内でのウイルス感染リスクが低減される。

表示イメージ



スキーム



GPSデータを活用した観光動態調査

調査の方法・内容

携帯電話に付帯するGPS機能から得られた位置情報(※)から、個人を特定することなく統計処理を行い、観光客の動向を把握する観光統計調査。(2013年度、2014年度実施)

《調査内容》

- ・「神宮来訪者実人数」の推計(2013年…938万人 2014年…717万人)
- ・2012年～2014年の3年間の来訪者数の変遷
- ・旅程別の来訪者数の変化(来訪者の発地、宿泊数、宿泊地などの属性から傾向を把握)
- ・各エリアの周遊実態(3年間の変遷を含む)



調査結果の活用

GPS調査の結果から…

- ・来訪者の実態が明らかに(例:「伊勢神宮(両宮)参拝者数」ではなく「伊勢神宮実来訪者数」を推計)
- ・「観光客実態調査(2014年から実施)」の内容に裏付けが得られた

以後「観光客実態調査」を継続実施することで、伊勢市の観光の実態を把握して **観光施策に反映**

18

観光客周遊促進の実証事業



「Desika: 伊勢でしか」(イメージ)



(3) デジタル人材の育成・活用

地域活性化起業人制度の活用(令和5年度予算)



日本リスキリングコンソーシアムへの参画



市民のデジタルスキル等をアップデートする機会の提供につながると考え、伊勢市として参画。

ITパスポート取得支援(令和5年度予算)

ITパスポート試験

合格者には、受験手数料の一部を助成！
(受験手数料7,500円のうち、5,000円を助成)

ITパスポート試験とは・・・

ITを活用するすべての社会人、これから社会人となる学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験です。



詳細はタップしてご覧ください

国家資格(ITパスポート)の受験料を支援

ITパスポートとは・・・
ITを活用するすべての社会人・これから社会人となる学生が備えておくべき、ITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験

(4)防災に関する取組

防災メール、Yahoo!防災との連携

伊勢市では防災行政無線の放送内容を登録したメールアドレスへ配信するサービスを実施しています。登録者数も1万5千人を超え、住民のみならずからも信頼いただいているサービスであると考えています。

○防災メールでの配信情報

防災行政無線情報	避難情報、避難所開設等の防災情報、行方不明者情報など、防災行政無線でお知らせする情報
火災情報	伊勢市消防本部管轄内での火災情報を配信
防犯情報	伊勢市内の不審者情報、振り込み詐欺、犯罪発生情報



防災メールの登録者数 15,428人(2021年10月1日現在)

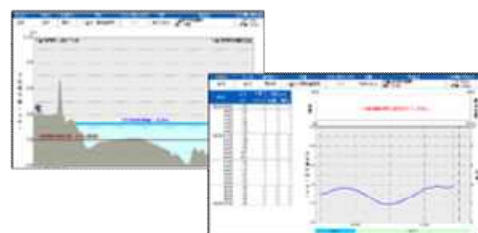
○ヤフーとの災害協定

令和元年6月19日にヤフー株式会社と「災害に係る情報発信等に関する協定」を締結し、「Yahoo!防災速報」アプリで防災情報を発信しています。



災害対策本部における川の防災情報活用

○川の防災情報



近隣や河川上流部の観測所の水位データを避難情報の判断に活用

○河川ライブカメラ



各河川の実タイムの状況を把握する

危機管理型水位計の設置

「危機管理型水位計」とは

- 国の革新的河川技術(管理)プロジェクトにより開発された、洪水時の観測に特化した水位計
- 長期間メンテナンスフリー(無給電で5年以上稼働)低コスト(本体費用は100万円/台以下)
- 小型で省スペース設計のため、河川の堤防や橋梁に簡単に設置が可能



「危機管理型水位計」で近くの川の水位を確認



【凡例】
～危険度をCHECK～

自分のパソコンやスマホで水位を確認

川の水位情報 検索

QRコードから確認できます

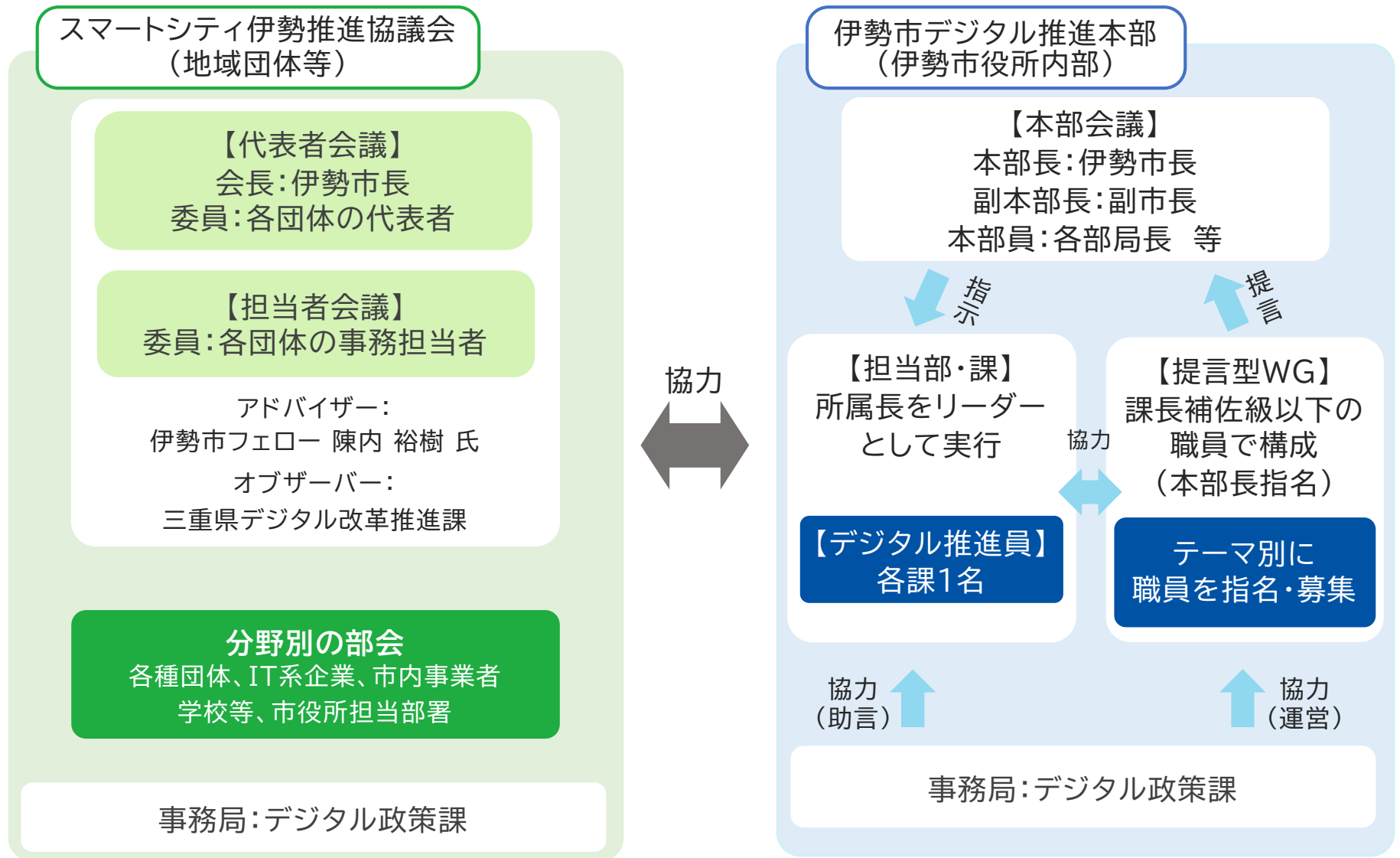
①危機管理型水位計アイコン
危機管理型水位計が設置されている箇所にアイコンが表示
水位計が設置されている河川は、青い線で強調表示

②通常水位計アイコン
通常水位計が設置されている箇所に五角形のアイコンが表示

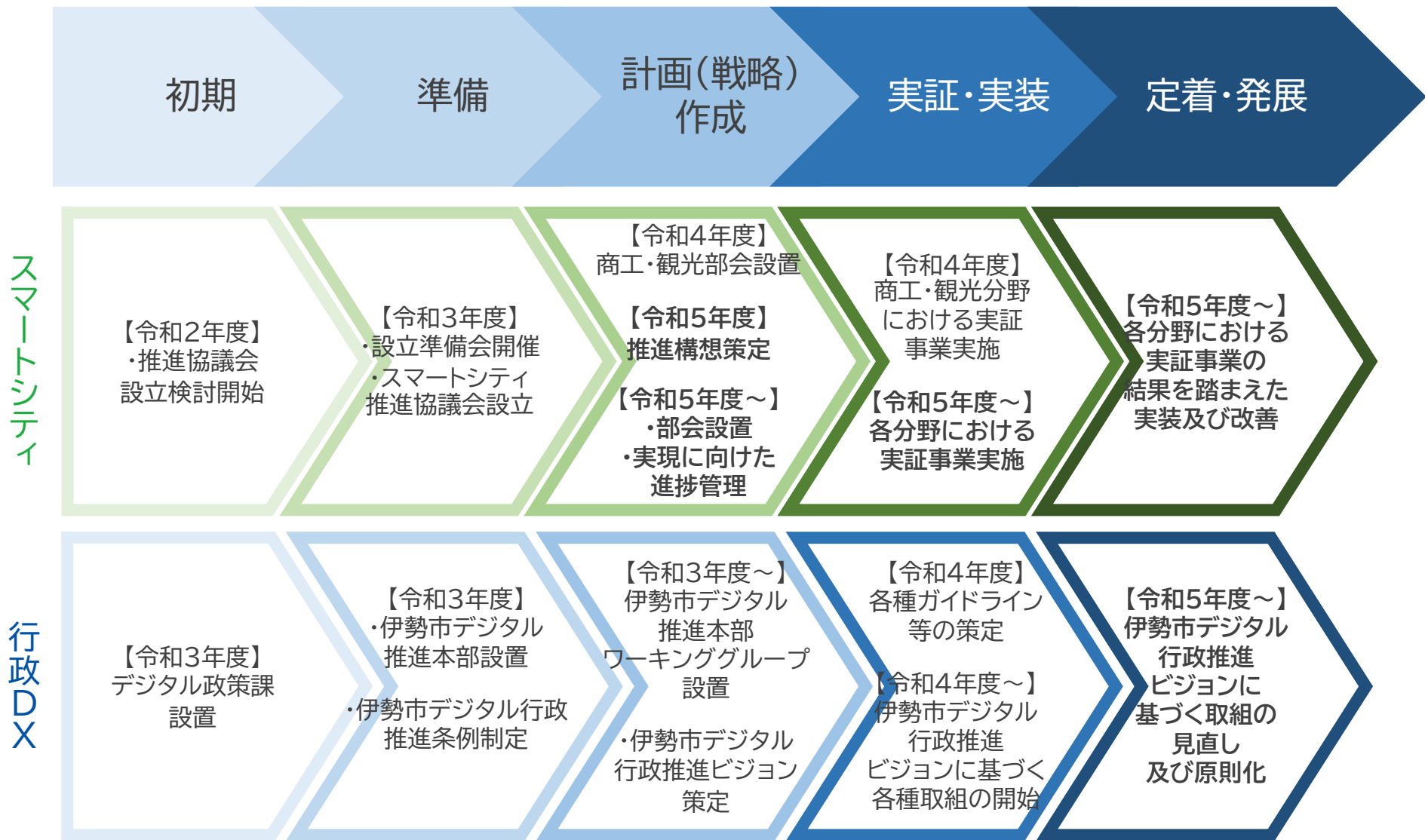


- ・必要な場所に適切な災害パトロールの開始、実施
- ・気象状況等と併せ、適切なタイミングで避難情報を発令
- ・被害状況の客観的評価と応急復旧の指示

スマートシティの実現に向けて、産官学民が協力して取り組める体制を整えます。



VIII. 今後の進め方・ロードマップ



太字はこれから実施する取組、または継続している取組

スマートシティ伊勢推進構想

【参考 I】用語集



用語	解説
RPA	Robotic Process Automation(ロボティック プロセス オートメーション)の略称。定型的なパソコン操作を自動化できる技術のこと。
アプリ	アプリケーションの略であり、スマホやタブレットなどのデバイス上で起動するソフトウェアのこと。
伊勢市LINE公式アカウント	伊勢市が運用しているLINE公式アカウント。市政情報やイベント情報を配信しているほか、一部手続きをLINE上で行えるようにしている。令和5年10月31日時点の友だち登録者数は、24,783人。
伊勢市デジタル推進本部	市全体のデジタル化を全庁横断的に推進するために、市長をトップとして設置している組織。
位置情報	人や物などの位置に関する情報。特に、GPSを利用して取得される、緯度や経度などの情報を指すことが多い。
AI	Artificial Intelligence(アーティフィシャル インテリジェンス)の略称で、日本語では「人工知能」を意味する。人間にしかできないような高度に知的な作業や判断を、コンピュータ等の人工的なシステムにより行えるようにしたもの。
AI-OCR	AI技術を活用したOCR(Optical Character Recognition(オプティカル キャラクター レコグニション))の仕組みやサービスのこと。AIの特徴である機械学習やディープラーニングによって、文字の補正結果を学習し、文字認識率を高めることが可能になる。
SNS	Social Networking Service(ソーシャル ネットワーキング サービス)の略称。利用者同士がWeb上で交流できる会員制サービスのこと。
オーバーツーリズム	観光地に許容量以上の観光客が押し寄せること。具体的な問題としては、街中の人混みや交通渋滞、トイレの不足といったインフラの問題、騒音やゴミの問題、環境破壊などと、それらを原因とした地域住民と観光客とのトラブルが挙げられる。
オンデマンド交通	予約をすると運行する乗り合いの公共交通機関。
オンライン申請	自宅や外出先からでも、時間を選ばず、スマートフォンやパソコン等により、必要な手続きがインターネットを利用して行えるもの。
ガイドライン	法律やルールなどを守るための指針や指標、方向性。
観光MaaS	旅行者を対象として、観光地までの来訪や観光施設間の往来に必要な移動手段をワンストップで提供するサービスのこと。
危機管理型水位計	洪水時の観測に特化した水位計。

用語	解説
キャッシュレス決済	クレジットカードや電子マネー、口座振替を利用して、現金を使わずに支払い・受け取りを行う決済方法。
コストパフォーマンス	費用対効果のことで、投入した費用に対して、得られる価値やメリットの度合いのことを指す。
サービスデザイン	顧客体験のデザインのみならず、それを継続的に提供できる組織や仕組みもデザインすることで、新たな価値を創出する方法論のこと。
サイネージ(デジタルサイネージ)	駅や店舗、施設、オフィスなどに、ディスプレイやプロジェクターなどの映像表示装置を設置して情報を発信するシステム。
サイバー攻撃	パソコンやサーバーなどの情報端末に対し、ネットワークを介してシステムの破壊や情報の改ざん、窃取などをする行為。
サテライトオフィス	企業または団体の本拠から離れた所に設置されたオフィスのこと。
産官学民	産業界(民間企業)、学校(教育・研究機関)、官公庁(国・地方自治体)、民間(地域住民・NPO)の四者。
GPS	Global Positioning System(グローバル ポジショニング システム)の略称。人工衛星(GPS衛星)から発せられた電波を受信し、現在位置を特定するもの。
市民参加型プラットフォーム(デジタルプラットフォーム)	オンライン(インターネット)上で参加者が直接意見を投稿、交換、蓄積することが可能な市民参加型アイデア募集システム。
少子高齢化	人口に占める高齢者の割合が増加する「高齢化」と、出生率の低下により若年者人口が減少する「少子化」が同時に進行する状態のこと。
ステークホルダー	企業・行政・NPO等の利害と活動に直接・間接的な利害関係を有する者を指す。
スマートシティ	ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント(計画、整備、管理・運営等)の高度化により、都市や地域の抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける、持続可能な都市や地域であり、Society 5.0の先行的な実現の場。
スマートシティ伊勢推進協議会	デジタル技術等を活用して、サービスの向上、組織運営の効率化及び地域課題の解決を行うスマートシティの実現に向けて、産官学民が連携して取り組んでいくため、相互に意見交換、情報共有等を行い、一体となって様々な取組を行っていく場。令和4年2月に設立。

用語	解説
スマートフォン	従来の携帯電話に比べてパソコンに近い性質を持った情報機器。大きな画面でパソコン向けのWebサイトや動画を閲覧できたり、アプリケーションを追加することによって機能を自由に追加したりすることができる。また、タッチパネルを使い、画面の拡大やスクロールなど直感的な操作が可能。
生成AI	「Generative AI(ジェネレーティブ エーアイ)」とも呼ばれ、学習済みのデータを活用してオリジナルデータを生成するAIを指す。例:テキスト生成AI、画像生成AIなど
第3次伊勢市総合計画	伊勢市総合計画条例に基づき、総合的かつ計画的な市政運営を進めるための最上位の計画。計画期間は、平成30年度から令和11年度まで。
第3次伊勢市総合計画 中期基本計画	伊勢市の「まちの将来像」を実現するための施策の基本的な方針などを体系的に示したもの。計画期間は、令和4年度から令和7年度まで。
タイムパフォーマンス	時間帯効果のことで、かかった時間に対する満足度をあらわす言葉。
多様化	様式や傾向などが、多くの種類に分かれること。
地域ポイント	自治体が行うサービスやイベントにおいて、住民の認知・参加を促進するためのポイント制度のこと。
データ流通	多種多様かつ大量なデータが、企業や業界を越えて流通すること。
データ連携基盤	異なる複数のシステムやサービス間で蓄積された異なる形式のデータを効率的に収集・変換・管理してやり取りを行うための基盤となる仕組みやシステムを指す。
デジタル行政推進ビジョン	行政サービスのオンライン化・デジタル環境の整備等を推進するための方針を示したもの。本ビジョンの基本理念は、「～利用者目線で作るデジタル行政～市民に優しく、暮らしを便利に」。
デジタルデバイド	インターネット等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差のこと。
デジタル変革(デジタルトランスフォーメーション)	デジタル技術を活用し、業務、組織、企業文化等を変革し、様々な課題を解決すると同時に新しい価値を創造すること。
デジタルマップ(デジタル地図)	パソコン上で扱えるようにデータ化された地図のこと。専用のソフトウェアやウェブサイトを通じて提供される。
デジタルリテラシー	インターネットを中心にデジタル情報や通信について、さらにはそれらを活用するパソコンやスマートフォンなどの機器やアプリについて知識を持ち、利用する能力のこと。
テレワーク	職員が所属する組織の所在場所から離れたところにおいて、通信ネットワーク及びICT機器を活用して業務に従事すること。

用語	解説
電子決裁	紙の書類ではなくパソコン上の電子文書を用いて決裁処理を行う方法。
ドローン	正式名称は「無人航空機(unmanned aerial vehicle(アンマンドゥ エアリアル ビークル))」。無人で遠隔操作または自動制御により飛行することができる航空機のこと。
ニーズ	相手が求めている理想的な姿や状態。
パブリックコメント	行政機関がルールを定めるときに、事前に一般から意見を求める制度。
標準システム	一定の基準や規格に沿った統一的な情報システム。
分野横断課題	第3次伊勢市総合計画において、8つに分けている政策分野を横断する重点的な課題。
ペーパーレス	紙媒体を電子化してデータとして活用・保存すること
包摂	異なる意見や立場、文化や価値観などを受け入れ、調和を図ること。
マイナンバーカード	マイナンバーが記載された顔写真付のカードのこと。
マッチングサービス (マッチングアプリ)	人材募集や取引先開拓などで最適な引き合わせを行うサービス。
リスキリング	技術革新やビジネスモデルの変化に対応するために、新しい知識やスキルを学ぶこと。
ロードマップ	プロジェクトや事業における「目標達成までの道筋」を時系列で示したもの。
6次産業化	農林漁業者が、農産物などの高付加価値化のため、食品加工(2次産業)、流通・販売(3次産業)に取り組むこと。
ワークショップ	本来は「作業場」「仕事場」を意味する言葉だが、現代では参加者の主体性を重視した体験型の講座、グループ学習、研究集会などを指す言葉として浸透している。
ワークライフバランス	仕事と生活のバランスがとれた状態のこと。
Wi-Fi	Wireless Fidelity(ワイヤレス フィデリティ)の略称。無線通信技術のひとつで、多くのデバイスが円滑に接続できるように設けられた統一規格。

スマートシティ伊勢推進構想

【参考Ⅱ】 策定経過



スマートシティ伊勢推進構想策定委員会 委員名簿

50音順(敬称略)

役職	氏名	所属団体等	委員区分
委員	池山 敦	皇學館大学	学識経験者
委員	岡田 麻沙	公益社団法人 伊勢市観光協会	公の団体代表
委員	岡野 功	伊勢商工会議所	公の団体代表
委員	亀谷 崇	一般社団法人 伊勢地区医師会	公の団体代表
委員	南平 拓也	伊勢農業協同組合	公の団体代表
委員	野中 秀行	社会福祉法人 伊勢市社会福祉協議会	公の団体代表
委員	早川 千奈美	伊勢小俣町商工会	公の団体代表
委員	宮崎 孝	独立行政法人 国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校	学識経験者

スマートシティ伊勢推進構想策定委員会 開催経過

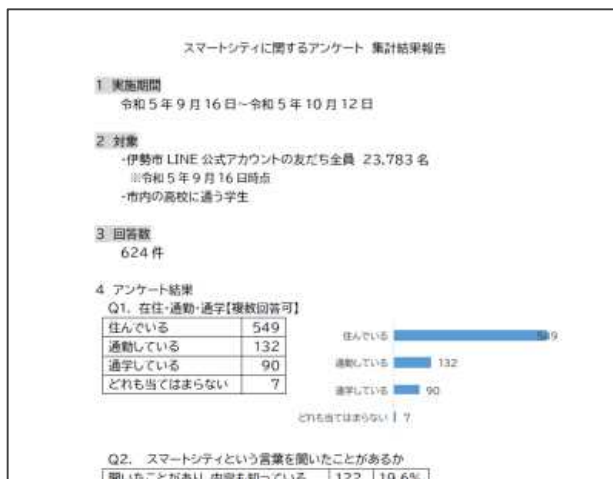
- 第1回 策定委員会(7/18) … 第1案(骨子案)提示
- 第2回 策定委員会(8/22) … 第2案(草案)提示
- 第3回 策定委員会(10/25) … 第3案(事務局案)提示、
ワークショップ・オンラインアンケート結果報告
- 第4回 策定委員会(1/16) … パブリックコメント結果報告・議会提出前最終案提示

スマートシティ伊勢推進構想策定委員会 市民参画

○ ワークショップ開催

○ オンラインアンケート実施

○ パブリックコメント実施



下記のフォームにご入力をお願いします。

「(仮称)スマートシティ伊勢推進構想」への意見を募集します！
伊勢市では、デジタルを活用した住みやすく便利なまち「スマートシティ」の実現に向けて、目指す姿や方向性、取り組み例などをまとめた「(仮称)スマートシティ伊勢推進構想」の策定作業を進めています。本構想をよりよくするために、市民の皆様から広くご意見をいただきますよう、お願いします。

Q1. あなたの立場で、あてはまるものを選択してください。 必須

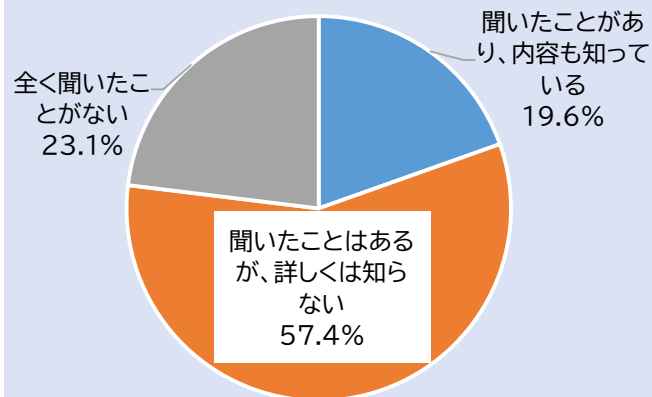
- 市内に住所を有する方
- 市内に事務所又は事業所を有する方
- 市内に存する事務所又は事業所に勤務する方
- 市内に存する学校に在学する方
- 市に対して納税義務を有する方
- 本構想に利害関係を有する方

Q2. 氏名及び住所をご記入ください。(法人の場合は名称・代表者氏

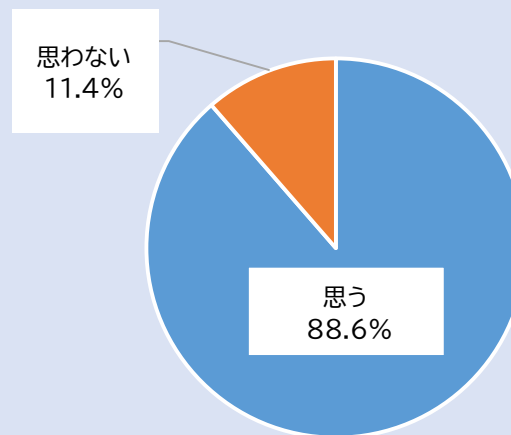
Q1 在住・通勤・通学



Q2 スマートシティという言葉を見たことがあるか。

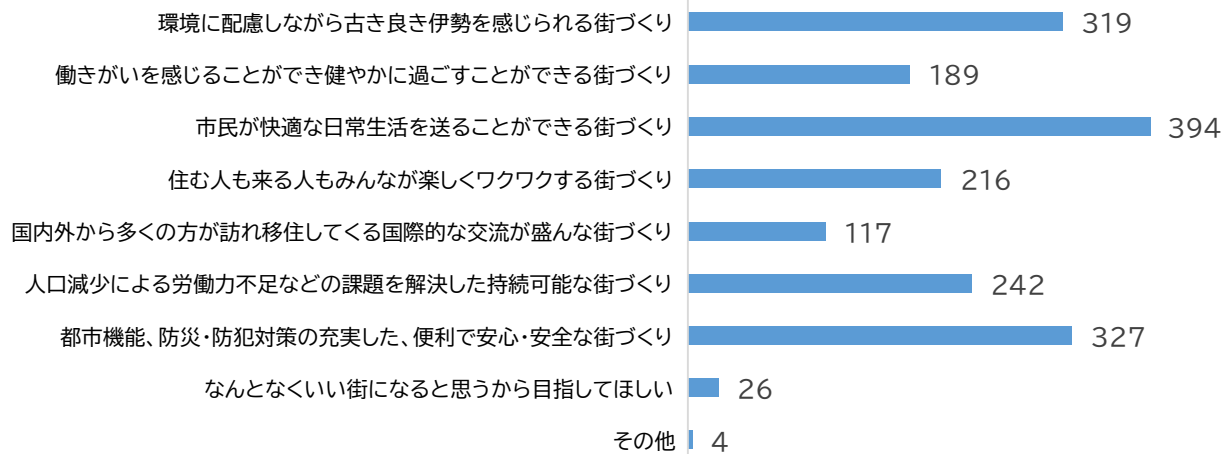


Q3 スマートシティを目指す必要があると思うか。



Q4

どんな街を目指すべきか。
(Q3で「思う」と回答した方のみ、
複数回答可)

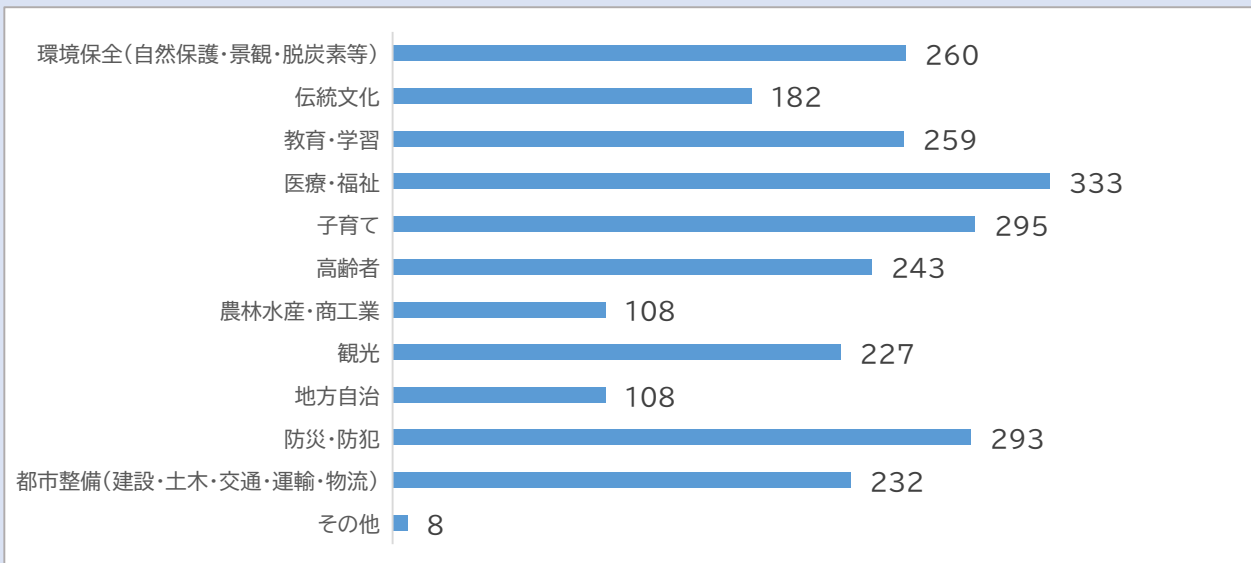


Q5

どのような分野での取組を進めてもらいたいのか。

【Q3で「思う」と回答した方のみ、複数回答可】

※一部抜粋



Q6

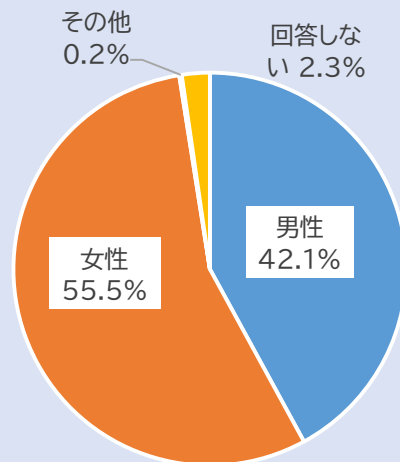
スマートシティを目指す必要があると思わない理由【Q3で「思わない」と回答した方のみ】

※一部抜粋

- ・今まで通りの暮らしがいいから
- ・情報の流出がこわい
- ・ある程度の年齢以上の方が理解することが難しくなりついて行けなくなる様な気がする
- ・他にすべきことがある など

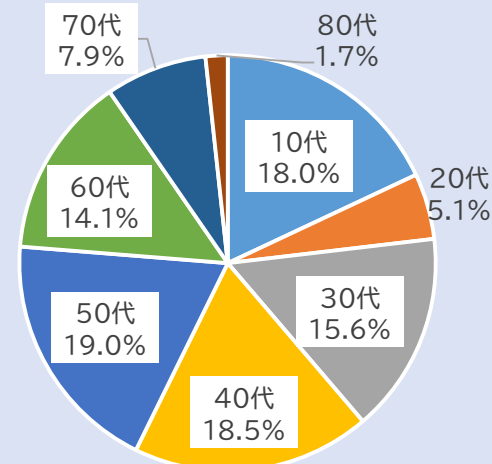
Q7

属性情報(性別)

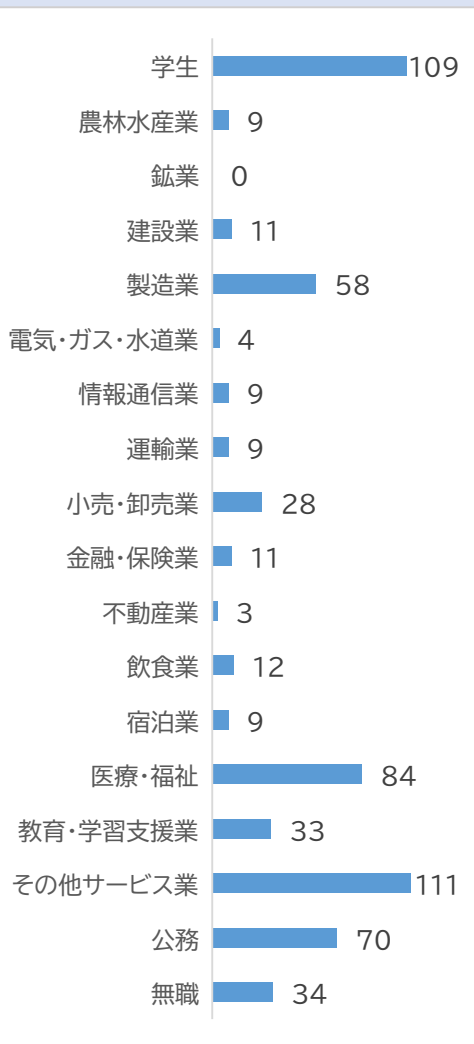


Q7

属性情報(年齢)



Q7 属性情報(業種)



Q4 その他回答

- ・子育て世代が住みよい街づくり
- ・高齢者の移動、交通手段(配車など)の確保、DX化
- ・伊勢の子どもたちの偏差値を全国1位にする。教育市にしないと人口が増えない
- ・役所などの手続きを時間外でも対応してもらいたい。あとは、鉄道と三交バスとおかげバスを合わせた乗り換え案内があると良い。あとは良い。

Q5 その他回答(一部抜粋)

- ・シルバーでの仕事
- ・自動運転、ドローン、リニア、Wi-Fi
- ・6月の大雨で学校からの緊急メールで子どもを迎えに行きましたが、道路や駐車 場が冠水していて大変ヒヤヒヤした。デジタルを駆使して細かな情報が欲しかった。緊急事態は慌ててしまうので、進行形のハザードマップがアプリとかで確認できていたなら、「今は外に出ない方が安全」という判断ができたのに、と思いました。

Q6 その他回答(一部抜粋)

- ・スマートシティと言葉は良いけど高齢者が置いてきぼりになると思います。今でも置いてきぼりの傾向が多いです。
- ・現状の方法で不自由がないから
- ・それより先に高齢者、障害者、子育て世代への支援など他にもっとしてもらいたいことがあるから。

参考Ⅱ. 策定経過（ワークショップ結果）

令和5年10月18日：市民が便利で暮らしやすいまち「スマートシティ伊勢」を考えるワークショップの開催

〈① スマートシティという言葉からイメージするもの〉

※一部抜粋

- まち全体のイメージ
近未来的、便利、安全、快適に暮らせる、豊かな生活、かっこいい、綺麗
- できることのイメージ
スマホで色々できる、各種無人化や電子決済、情報の可視化、ペーパーレス
- ネガティブなイメージ
固い、スマホがないと何もできない、高齢者に優しくない、情報管理される
- その他
脱炭素、クリーン、遠隔

〈② デジタル化が進む中で、伊勢はどんなまちを目指してほしいか〉

- ・事故が少なく、子どもを守れる安全なまち
- ・伝統文化や古いまちなみを残し、新しい技術が交錯するまち
- ・オーバーツーリズムにならない程度に活性化されたまち
- ・電車やバス、タクシーなどの交通機関が充実したまち
- ・無人運転や混雑状況の把握がデジタルでできるまち
- ・積極的に情報を可視化し、利用できるまち（情報発信を含む）

〈③ ②を実現するためには何をすべきか〉

- ・交通量や事故の数を分析し、信号を調整する
- ・正しい参拝の手順や方法を案内してくれるアプリの開発
- ・デジタルマップ上で、店の営業状況や距離、ごみ箱の位置が分かる
- ・キャッシュレス決済の導入拡大
- ・企業誘致（ロボット製作会社など）
- ・市民がどうしたらよい街になるかを考え、市に届けられる仕組み

スマートシティ伊勢推進構想

【参考Ⅲ】

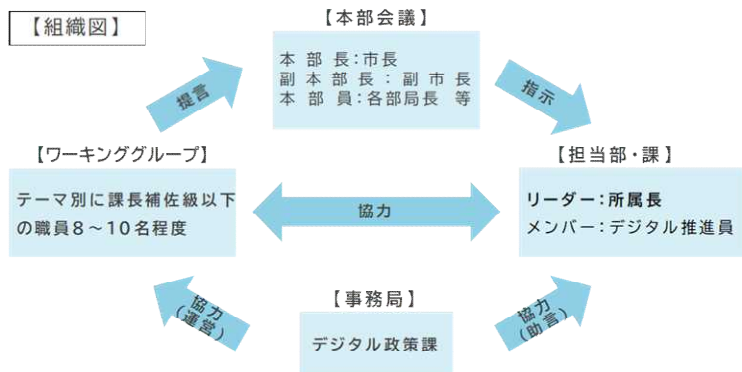
行政がこれまでに取り組んできた主な取組



(1) 推進体制・環境の整備

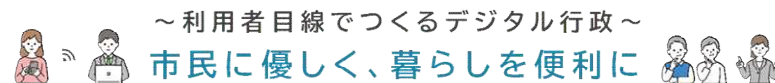
庁内推進体制の整備 ～伊勢市デジタル推進本部の設置～

庁内のデジタル化を推進するため、市長を本部長とする「伊勢市デジタル推進本部」を設置しました。(令和3年7月30日付)



※推進体制とは別に情報セキュリティ対策強化のため「伊勢市システム管理・セキュリティ委員会」を設置。(令和3年7月30日付)

伊勢市デジタル行政推進ビジョンの策定



行政サービスのオンライン化・デジタル環境の整備等を推進し、デジタル技術を活用しようと思える価値の創出を目指します。推進に当たっては、利用者に優しいUIの設計を心がけるとともに、市民のデジタルリテラシーの向上にも取り組みます。また、事務の高効率化・高品質化を図りながら、安全・安心を感じられる行政運営の実現を目指します。

ビジョンの位置づけ

第3次伊勢市総合計画の分野別計画に位置づけられ、「官民データ活用推進基本法」第9条第3項に規定される「市町村官民データ活用推進計画」としても位置づけられます。また、国が定める「自治体DX推進計画」に示されている重点取組事項等に対する市の基本方針等を定めるものです。

ビジョンの計画期間

令和3年10月11日(デジタルの日)～令和8年3月31日

また、本ビジョンを確実かつ効率的に実行していくために、令和4年3月31日に本ビジョンのアクションプラン編を策定しました。

伊勢市情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例

令和3年10月11日(デジタルの日)に伊勢市情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例(通称:伊勢市デジタル行政推進条例)を制定し、パソコンやスマートフォンなどを用いた手続きを可能としました。

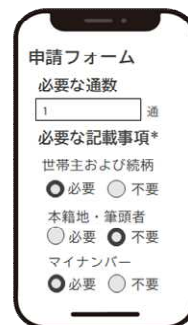
第1条. 目的

情報通信技術を活用した行政の推進について、情報通信技術を利用する方法により手続等を行うために必要となる事項を定めることにより、手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図り、もって市民生活の向上に寄与すること。

署名等が必要な手続きや手数料の納付等については、伊勢市情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例規則を定めました。

※ 書面による手続きを全てデジタル化するのではなく、デジタルによる手続き等もあわせて可能とすることで、市民の利便性を向上させることとしています。

※ 実際の運用に当たっては、情報システムの整備、電子署名の取扱い等関係例規の整備及びデジタル活用できる手続等の整理を行い実施します。



(2) デジタル技術を活用した、人にやさしいサービスの提供

行政手続きのオンライン化①

デジタル田園都市国家構想交付金 TYPE1 活用

行政手続きのオンライン申請の開始

マイナンバー制度の導入に合わせ、平成29年1月からマイナポータルの本格運用が開始されており、本市においても、子育てや介護分野における一部手続きのオンライン申請が可能となっておりますが、

令和4年2月1日より、様々な行政手続きのオンライン申請を可能とする「伊勢市スマート申請」を開始

2022年10月 伊勢市スマート申請で利用できる12の行政手続き



マイナポータルでオンライン申請が可能な手続き

- 児童手当受給資格及び児童手当の額についての認定請求
- 児童手当の額の改定請求及び届出
- 児童手当受給事由消滅の届出
- 児童手当現況届
- 保育施設等の利用申込
- 妊娠の届出
- 介護保険被保険者証の再交付申請
- 介護保険負担割合証の再交付申請

三重県内初の7つの手続き

- 所得証明
- 課税(自動車税)証明
- 戸籍(除籍)証明全般
- 住民票謄本
- 身分証明書
- 住民票謄本交付申請

便利に使える5つの手続き

- 住民票の写しの交付申請
- 後援名義申請
- 犬の登録事項変更届
- 犬の死亡届
- 空き家バンク利用登録申込

伊勢市スマート申請で利用できる12の行政手続き

伊勢市LINE公式アカウント

伊勢市LINE公式アカウントは令和元年8月に開設以降、令和5年10月31日時点で友だち登録者数は**24,736人**となっています。

伊勢市LINE公式アカウントのできること

欲しい情報を受信する

- 受信設定(R2.6~)
 - 11のカテゴリにわけて情報発信
- 申請や申込をする(オンライン手続)
 - 一時保育予約(R1.11~)
 - イベント申込(R2.6~)
 - 水道の開始・中止の申込(R3.1~)
 - 伊勢市スマート申請案内(R4.2~)
 - 公立幼稚園の欠席連絡(R4.4~)
 - マイナンバーカード受取予約(R5.6~)
 - 粗大ごみ有料収集申込(R5.7~)
 - キッズ☆もっとテラス交流ひろば「あそびな」利用予約(R5.8~)
- 欲しい情報を受信する
 - 受信設定(R2.6~)

気になることを調べる(チャットボット案内)

- 総合案内(R4.2~)
- ごみ分別・収集の案内(R2.7~)
- 障がい福祉の手続き案内(R3.4~)
- 新型コロナ関連支援情報の案内(R3.4~)
- 伊勢総合病院の案内(R4.2~)

気になることを調べる(ホームページ案内)

- 市各種ホームページの案内(R1.8~)
- 市窓口・主要観光地混雑状況(R3.4~)
- 新型コロナ関連ページの案内(R4.2~)

市公式SNSの案内(LINE・Facebook等)

- 各種相談LINEのご案内(R3.4~)
- 公式Facebook、Twitter、Youtube等の案内(R4.2~)




伊勢市LINE公式アカウント

◇LINEによる一時保育予約システム導入

伊勢市LINE公式アカウントから一時保育の利用登録や予約を行うことが可能

自治体全国初!
R1.11サービス開始

LINEによる申込者の割合 **ほぼ100%**で推移

2023年11月分申込		
LINEによる申込者数	窓口申込者数	LINE一時保育登録者数
515人	0人	290人

伊勢市として、初めてのアジャイル型開発を体験

※利用実績の集計や空き状況がシステムで見れるようになり、電話対応が減ったことで保育士の業務負担の軽減にもなった
※東京都中野区でも同システムで試行実施

◇ごみチャットボット 1日 約60回の利用



(3) 利用者が身近に感じられるデジタル環境の整備

キャッシュレス導入事業

納付書の支払いや公共施設の利用料等の支払いにおいて、キャッシュレス決済の導入を進めています
令和5年11月1日現在、納付書は2種類、公共施設は14窓口において、キャッシュレス決済を導入済みです。

納付書払い

種別	導入サービス
上下水道料金	クレジットカード決済、PayB、LINE Pay、PayPay
市税等	PayB、LINE Pay、PayPay



公共施設(窓口)

施設名	導入サービス			
	クレジットカード決済	電子マネー	交通系IC	コード等 その他決済
戸籍住民課	○	○	○	○
課税課・各総合支所(二見・小侯・御園)	○	○	○	○
市立伊勢総合病院	○			
民話の駅 蘇民	○	○	○	○
タイムスタジアム伊勢				○
伊勢フットボールヴィレッジ				○
いせトピア、シンフォニアテクノロジー				○
警ホール伊勢				○
伊勢河崎商人館、資日館				○
市民活動センター				○

20

高齢者向けスマートフォン教室・スマホ相談窓口の開催

デジタル技術を利用できる方と利用できない方との間の格差を解消し、全ての住民にデジタル化の恩恵を広く行き渡らせていく、デジタルデバйд対策に取り組むことが求められています。令和3年度から、高齢者を対象としたスマートフォン教室を市内で開催しています。


スマートフォン教室の概要

電話、カメラ、インターネット、地図、LINE
伊勢市スマート申請、マイナンバーカード申請 など

【令和4年度】 国との連携事業
開催期間 令和5年1月～令和5年2月
参加者数 全6回 18人

【令和5年度】

- デジタル政策課 開催 約406人
- 公民館講座(社会教育課) 約112人
- 視覚障がい者対象(国との連携事業) 約35人
- 高齢者対象(国との連携事業) 約140人
- 計 約693人



～実際の様子～

スマートフォン相談窓口

【令和5年度】
スマートフォンやアプリに関する個別相談
開催期間 令和4年10月～令和5年1月
参加者数 週1回3時間(30分×6枠)

24

オープンデータを活用した宇治山田商業高校と連携した取組

宇治山田商業高校の活用事例

情報処理科の学生が、1年間オープンデータ活用を学習し、地域のための活性化プランを伊勢市に提案

アプリ名	活用したデータ	毎月開始
ごみ出しアプリ「5374.jp」	ごみ品目一覧表	平成30年7月
防災アプリ「安心みえた」	災害時指定避難所一覧	平成31年3月
スマートフォンアプリ「5374クイズ」	ごみカレンダー、ごみ分別一覧表	平成31年3月
防災クイズ「花もかいてきれい」	こどもと保護者の防災ハンドブック	令和2年3月
ごみ出しアプリ「5374.jp」カレンダー版	ごみカレンダー、ごみ分別一覧表	令和3年3月

●ごみカレンダーアプリ 5374.jp ●防災アプリ 安心みえた ●ごみクイズアプリ ●防災クイズアプリ

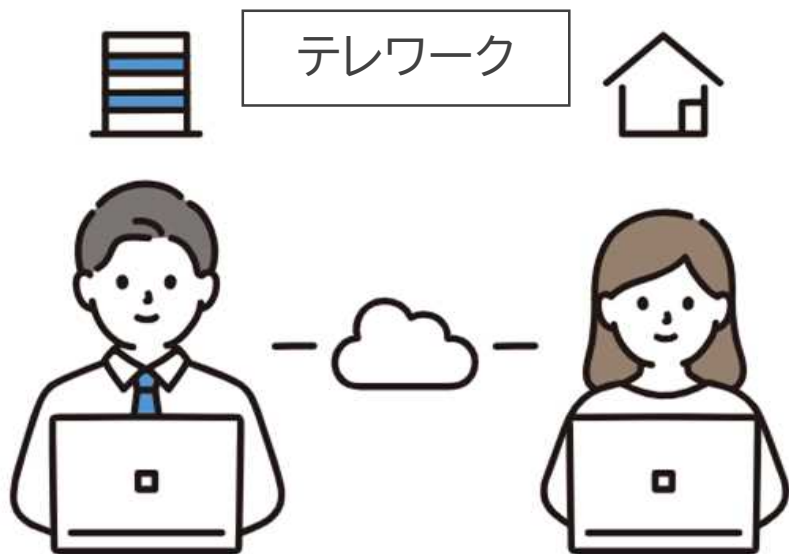


(4) 高い利便性と信頼性を両立した信頼される行政運営

LoGoチャットの活用 ~行政ネットワーク専用チャットツール~

LoGoチャットとは？

シームレスにやり取りが出来るツール！



電子決裁

文書の処理方法の原則

優先順位

電子決裁
電子供覧



紙決裁
紙供覧

生成AI(ChatGPT等)の活用

LoGo AI アシスタント bot版



6つの特徴

- 1 LGWAN・インターネットからChatGPTが使える
- 2 定額制の料金プラン
- 3 会議データはOpenAI社の学習に利用されない
- 4 個人情報を入力を制限できる
- 5 GPT-3.5およびGPT-4に対応
- 6 ほかの自治体と情報交換できる

7.20(木) テキスト生成AI(ChatGPT等)活用セミナー

14:00-16:00

プログラム	場所	
1 ChatGPTを始めとする生成AIとは何か	伊勢曲工台議室 5階 大ホール	
2 これを上手に活用しないに、これからの時代、 についていけない?		
3 なぜ生成AIがここまでなのか		定額
4 生成AIとはどんなことができるのか		100名
5 便利なだけじゃない! ここに気を 付けなきゃいけない!		

講師 児玉知也
株式会社TENHO CTO
デジタルシフトオキナフ株式会社 取締役

申し込み
オンライン申し込み:
Q: <https://logoforum.jp/form/EJFD/309173> *QRコード
FAX: 裏面に記載ください

お問い合わせ
伊勢市役所デジタル推進課
TEL: 0596-21-5569
E: mail:dg@city.jp.mie.jp

主催 伊勢市
後援: スマートシティ伊勢推進協議会
協賛: 伊勢電気工業 伊勢市立図書館